

10月24日(土)具志堅隆松氏(ガマフヤー＝沖縄戦遺骨収集ボランティア)成城講演会



日時:2026 年10月24日(土): 15:00~17:30 場所:成城大学 3号館 3階大会議室

主催:成城大学グローバル研究センター／共催:平和社会学研究会／後援:戦争をさせない社会研究会
(成城大学:小田急線「成城学園前」駅下車、徒歩4分、正門入り左手の8階建:事前申込不要:参加費無料)



〈反戦平和〉の過去・現在・未来——沖縄と砂川からグローバルに問う

15:00-15:10 趣旨説明: 西原和久(グローバル研究センター客員研究員:平和社会学研究代表)

15:10-15:40 砂川報告: 高原太一(グローバル研究センター博士研究員:『砂川闘争とは何か:連帯の民衆史』著者)

15:40-16:40 講演:具志堅隆松(各種反戦平和団体代表):反戦平和運動の現在地——沖縄からの実践報告

【講演者紹介】具志堅隆松氏は1954年那覇生まれ、28歳の時から沖縄戦遺骨収集を始めて40年以上になります。現在は「沖縄を再び戦場にさせない県民の会」「戦争止めよう！沖縄・西日本ネット」で活躍し、さらに東京大空襲を含む日本の空襲を指揮した米軍カーチス・ルメイ将軍に日本政府が1964年に勲一等旭日大綬章を授与したことに対して「叙勲取り消し」を求める運動を起こし、また東アジアからの平和構築に向けて中国での講演を含めて積極的にアジアの人々との連携も深めています。そして最近では「沖縄県非軍事化及び地域外交推進条例の制定を求める請願」を沖縄県に提出し、具体的に反戦平和活動を着々と展開しておられます。こうした具志堅氏から、平和の実現のために、私たちが学べることは非常に多いと思われます。ぜひこの機会に、砂川の経験も踏まえて、平和のために私たちに何ができるかを考えてみたいと思います。

著書『ぼくが遺骨を掘る人「ガマフヤー」になったわけ。——サトウキビの島は戦場だった』合同出版 2012年

・新しいインタビュー記録:『新しい戦前』に抗するために——沖縄戦遺骨収集の具志堅隆松さんの活動『平和社会学研究』第4号、東信堂、2026年、所収

＝関連情報＝

翌日の10月25日(日)午後1時～3時半に、具志堅隆松氏のもう一つの講演会があります:砂川の大地から、とどけ平和の声 土が語る記憶——沖縄と砂川:平和の声を未来に

会場:立川市・女性総合センター・アイム 第3学習室(JR立川駅北口から徒歩7分、多摩都市モノレール立川北駅から徒歩5分)

主催:砂川平和ひろば 後援:成城大学グローバル研究センター、平和社会学研究会